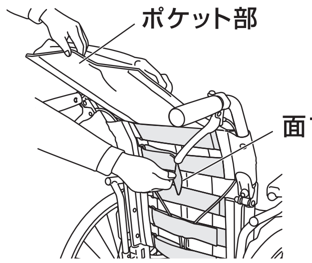
バックサポートの張り具合調節



＊バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

1　駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

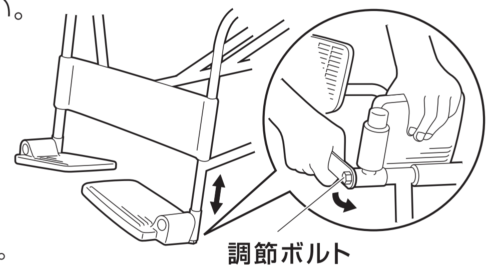
2　ポケット部をめくり上げます。

3　面ファスナーををはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

＊手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

4　ポケット部を元に戻します。

フットサポートの高さ調節



使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

1　駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2　フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。

3　使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。

4　調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

＊反対側も同様に調節してください。

＊フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。

＊フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

仕様・寸法

● 仕様

	UR-1	UR-2	UR-3	UR-4
フレーム材質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
シート材質	ポリエステル	ポリエステル	ポリエステル	ポリエステル
グリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ
バックサポート	背張り調整	背張り調整	背張り調整	背張り調整
背折れ	あり　レバー式	あり　レバー式	あり　レバー式	あり　レバー式
アームサポート	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
サイドガード	樹脂	樹脂	樹脂	樹脂
足台可動	固定	固定	スイングアウト	スイングアウト
フットサポート	ポスト	ポスト	ポスト	ポスト
キャスタ	6”黒 ソフトフォーミングキャスタ	6”黒 ソフトフォーミングキャスタ	6”黒 ソフトフォーミングキャスタ	6”黒 ソフトフォーミングキャスタ
タイヤ	22*1.3/8　エアータイヤ	16*1.5　エアータイヤ	22*1.3/8　エアータイヤ	16*1.5　エアータイヤ
制動用ブレーキ	あり	あり	あり	あり
ハンドリム	プラスチックハンドリム	なし	プラスチックハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	PNブレーキ　ロックン付き	PNブレーキ　ロックン付き	PNブレーキ　ロックン付き	PNブレーキ　ロックン付き

● 寸法

単位：㎜

	UR-1	UR-2	UR-3	UR-4
シート幅	400	400	400	400
全幅	640	570	640	570
レッグパイプ長	360〜	360〜	360〜	360〜
全高	900/920/940/960	900/920/940/960	900/920/940/960	900/920/940/960
全長	980	970	980	970
バックサポート高	380	380	380	380
後座高	410	410	410	410
シート奥行	400	400	400	400
アームサポート高	220	220	220	220
前座高	435	435	435	435
キャスタ	6インチ	6インチ	6インチ	6インチ
駆動輪（主輪）	22インチ	16インチ	22インチ	16インチ
折りたたみ時の全長	970	870	970(730)	870(630)
折りたたみ時の全高	670	670	670	670
折りたたみ時の全幅	340	270	340	270
重量	15.0kg	13.2kg	15.6kg	13.8kg

※1（　）内はフット・レッグサポートを取り付けたままのサイズです。

製造元

Wheel Chair MiKi

株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

1204-001

アップライト

URシリーズ　UR-1 / UR-2 / UR-3 / UR-4

補足取扱説明書

本書は、URシリーズ（UR-1、UR-2、UR-3、UR-4）共通の補足取扱説明書になります。本書では、機種ごとに装備が異なる項目には、該当機種を記載しております。該当機種を確認いただき、ご自分の車いすに関係する項目をお読みください。ご使用前に本書と別冊「標準車いす取扱説明書」を必ずお読みになり、十分に理解した上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体状況・環境の変化に合わせて、必要なときにお読みください。

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
本製品は、特別な身体保持具、バックサポート（背）・座位の角度調整機構等がなく、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準型車いすです。（UR-2、UR-4の場合、介助者が操作する介助用標準型車いすです。）
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

はじめにご確認ください

本製品購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ・車いす本体
- ・工具（スパナ2ヶ　六角レンチ 5㎜、4㎜、3㎜ 各1ケ）
- ・取扱説明書（本書）、標準車いす取扱説明書 各1ケ
- ・保証書

! 警告

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

⚠ 注意　ロックンブレーキについて

⃠ ロックンブレーキを他の車いすに取り付けて使用しないでください。

⃠ 車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。

! ロックンブレーキはタイヤの空気圧低下時等の制動力を保証するものではありません。使用前にタイヤの空気圧等の点検を行い、必要に応じて空気の補充をしてください。

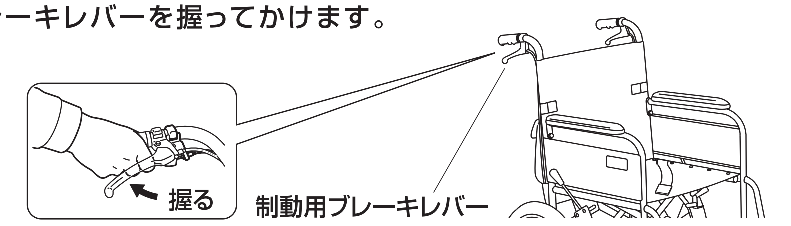
制動用ブレーキのかけかた

⚠危険	・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

⚠警告	ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。

⚠注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安:1年に1度）



手押しハンドルの高さ調節のしかた

介助者の身長に合わせて、手押しハンドルの高さを4段階（20mmピッチ）に調節できます。

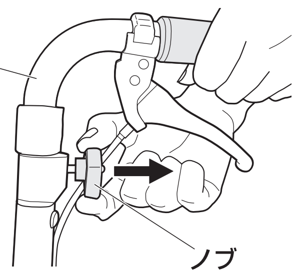
⚠警告	・手押しハンドルを持って車いすを持ち上げないでください。手押しハンドルのロックが外れて車いすが落下し、けがをする恐れがあります。 ・使用する前に、両側の手押しハンドルが確実にロックされていることを確認してください。事故につながる恐れがあります。

⚠注意	・段を上がるときは、テッピングレバーを使用してください。（別冊「車いす取扱説明書ー"段の上がりかた"参照」） ・手押しハンドルは左右同じ高さに設定してください。介助者が操作しづらくなるため、思わぬ事故につながる恐れがあります。 ・手押しハンドルの可動部に、指や身体および衣服をはさまないように注意してください。 ・手押しハンドルのノブに、ものを吊り下げないでください。故障の原因になります。

1　両輪の駐車用ブレーキのレバーを引いて、ブレーキをかけます。

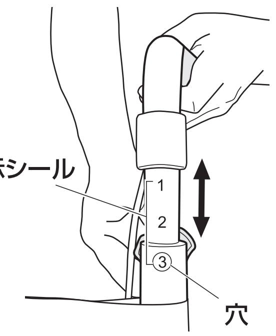
2　手押しハンドルを片方の手で支えながら、ノブを左回りに回してゆるめます。

ノブが後方へ引けるところまでゆるめてください。



3　ノブを後方へ引きながら、手押しハンドルを上下にスライドさせて高さを調節します。希望の高さに合わせたらノブを戻します。

＊手押しハンドルの正面に番号指示シールが貼ってあります。高さに応じて、番号指示シール①～④を穴の位置に合わせて調節してください。



4　ノブを右まわりに回して手押しハンドルを固定します。

確実に固定されていることを確認してください。

＊反対側も必ず同じ高さに設定してください。

＊調節後に制動用ブレーキ（介助ブレーキ）が正常に作動することを確認してください。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し　該当機種： UR-3 / UR-4

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。

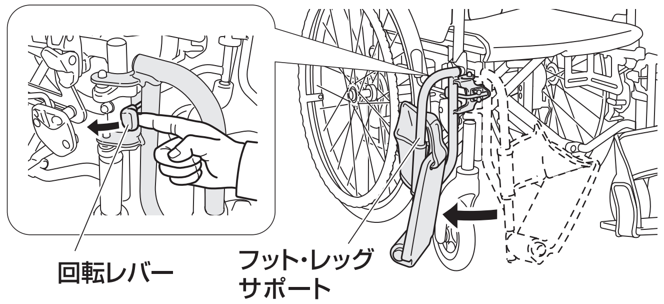
● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

● 閉じかた

⚠注意	フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。



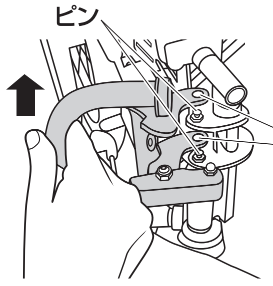
● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。

＊フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。



⚠警告	・フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際に、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

困った時には

車いすをご使用されていて『故障かな』と思いましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症状	確認点	対処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 〈自走の場合〉 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 〈介助者が押す場合〉 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	駆動輪（主輪）の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。
	キャスタの回転に左右差がありませんか。 キャスタ軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスタ、駆動輪（主輪）の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）の空気圧は適正ですか。	駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキ（介助ブレーキ）が効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駆動輪（主輪）に空気がはいらない、すぐにぬける。	適正な空気圧で補充してますか。	駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）が緩んでいませんか。	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。

アフターサービス

・万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をくわしくご連絡の上お申しつけください。

・保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保 証

・保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。

・保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
　修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。